

高度なアルミの切削技術

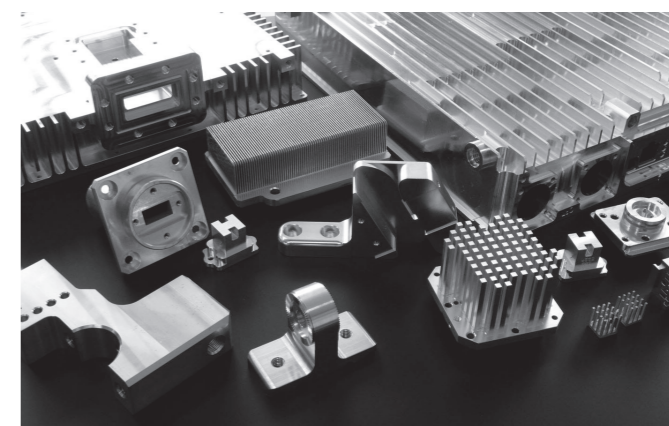
●町田製作所 〈前橋市〉



▲多種多様な製品に対応する設備が整った工場内



▲最終仕上工程で微細バリの除去作業



▲高度な技術で加工した精密加工製品



▲大きなアルミ板を指定の寸法にカットする



▲完成品の抜き取り寸法検査



▲難易度の高い製品には最新の5軸加工機を使用

人化を機にアルミダイカストの加工などに事業を拡大した。

ヒートシンクは、電子機器類に発生した熱を逃がす役目を果たす。放熱効果を高めるため、アルミの薄い羽根を並べた形状が一般的。現在、同社は携帯電話中継基地局の機器用ヒートシンクを主に製作している。

通常の切削加工では、「ばり」と呼ばれるはみ出た部分が出やすい。この課題を克服するため、ほとんどばりを出さない加工技術を研究。工作機械のマシニングセンターに装着するドリルの選び方やドリルの回転数などを総合的に考え、プログラミングする技術を確立した。

機械加工部門にはマシニングセンター26台をそろえ、切断や加工、仕上げ、洗浄、アルマイト加工まで一貫した生産ラインを整える。

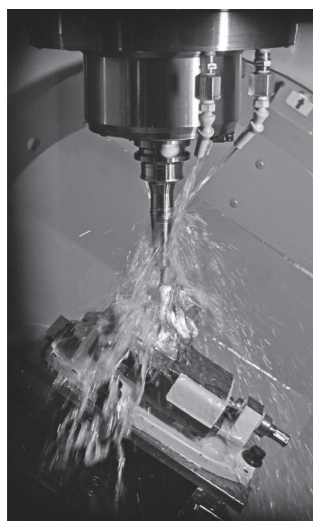
ばりを出さない技術は加工時間の短縮につながり、経営方針の「他者より良い製品をより安く、より早く作る」を実践する。町田敏康社長は「今後も社員全員の創意工夫で、より高度な技術の創造に挑戦していきたい」と語る。

町田社長は「取引先にとって必要不可欠な工場となるように、高品質で付加価値の高い製品を供給していきたい」と話す。

ヒートシンク生産 多様ニーズに対応

情報通信社会を支える電子機器類の重要部品「ヒートシンク（放熱板）」を中心に、アルミ製品の切削加工を手掛ける。取引先のニーズが多様化する中、独自性が高い製品の開発・生産から一般品の量産まで柔軟に対応できる。ばり（加工の際にはみ出た余分な部分）をほとんど出さないアルミ素材の切削加工の高い技術は、県の「1社1技術」にも認定された。

1976年創業。当初は贈答品などの金属加工を手掛けていた。82年の法



▶専用の油をかけながら切削することで、ばりの発生を抑える最新機器